

賃貸マンション5倍に

京急、羽田空港周辺に重点

京浜急行電鉄は賃貸マンションの開発・管理を強化する。自社で開発した物件のほか、他社から

の委託分も加え、グループの管理物件戸数を2020年までに15年度末比5倍の1000戸に増やす。特に沿線の羽田空港周辺のマンションを手掛けることで、空港拡張などで伸びる需要を取り込む考え。ホテルや不動産事業など鉄道以外の収益拡大につなげる。

自社開発を進めるため、新たに新ブランド「プライム ネクサス」をつ

くった。沿線の平和島駅（東京・大田）近くで41室のマンションの賃貸を始めたほか、京急蒲田駅（同）周辺に17年度に2棟を建設し、大鳥居駅など空港線沿いの他の駅での展開も検討する。

深夜や早期の時間帯に出社・帰宅する空港の従業員向けに、宅配ボックスやホームセキュリティサービスを完備する。

17年度以降に賃貸を始めるマンションでは、IC乗車券「パスモ」で入退室を管理したり、京急グループのタクシーを使ったりポイントで還元するサービスなどを提供したりすることも視野に入れている。

京急は現在、営業利益の6割を鉄道事業が稼ぎ出している。この比率を下げることを中長期の目標としており、2016年度からの5年で賃貸マンションやホテル事業に500億円を投じる計画を打ち出している。不動産事業の営業利益構成比も現在の1割から3割超に高めていく。